

社 報



職人の心

指差呼称してますか

事故・災害を起さないために、どこのゼネコンでも指差呼称(シサコショウ)を行なうように指導されています。

マスコミ報道も事故・災害を大きく取り扱うようになっており、人命尊重の理念は、より深く社会に浸透しているように感じます。

自分自身が事故の原因者にならないために、指差呼称は大変有効な手段です。

事故の原因者にならない活動は自身の事故も防ぐことにもつながります。

指差呼称ヨイカ? ヨシ!

飲酒運転は絶対ダメ!



当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

立馬から墜落……、あわや!

10月21日(土)16:20頃

消防局庁舎の現場で、立馬から降りようとして、棧を踏み外して墜落した。

被災者:下口和雄さん 63歳 経験21年

所属:野瀬工事部-五島建設

被災状況:通院加療1ヶ月

11月7日(火)11:00頃

建て込み作業中、強風により飛散した粉塵が目に入った。

被災者:羽村和也さん 24歳 経験4年

所属:竹島工事部-新藤工務店

被災状況:洗眼して完治

立馬での事故が多いようです。足元をしっかりと確認して昇降しましょう。

日本経済の低迷が続く中、建設業も暗く長いトンネルの中にありました。最近になって、ようやく出口が見えるようにも思えてきましたが、まだまだ油断は出来ない状況です。

建設業の長く暗いトンネルは、建設業界の中においても、様々なヒズミを生み出しています。

下請けや職人への待遇は、どんどんと悪くなり、格差社会というか、元請けと下請けの格差は確実に広がったようです。

現場でも、監督さんの指示や注意が、職人に対して失礼なような場合も、たまにはありますが見受けられます。

職人への待遇はますます厳しく、職人がプライドを持ち続けることも大変な時代になってきました。

これは誰のせいであるという問題ではありませんが、長い目で考えると時代の流れとしか言いようがありません。しかしながら、風向きはいつも一定の方向から差すわけではありません。時代の流れも、目に見えぬ変化の中で、ゆっくりと大きく変化しているはずなのです。

現場でのモノづくりが軽視される

ような傾向が、これからも続くとは思えません。

必ず、職人の技能が評価される時代が来るはずですので、それまで「職人の心」「モノ作りの心」を大切に、自分の腕を磨き続ける必要があります。

職人とは「腕を磨き続ける人」を、いうのであって、建設現場で働いているから職人ではありません。

腕を磨き続けて、技を身につけ、素晴らしいモノを作る、だから社会からも評価されるのが職人の、あるべき姿です。

職人と作業員は明らかに違うのであって、職人には、自分の仕事に対する自信とプライドが必ず必要です。

しかし現実には、建設業で体を動かせばお金がもらえると、そういう理由で働く人も多くいて、建設職人のイメージはどちらかと言うと、一般人にはそっちのイメージが強いようです。

建設業には多くの素晴らしい職人がいて、今も「腕を磨いてる」ことを是非知って欲しいものです。

2006年 安全成績

現場災害 H18.1.1-H18.11.10

休業災害 ----- 1

不休災害 ----- 4

物損災害 ----- 0

その他 ----- 0

合計 ----- 5

交通災害 H18.1.1-H18.11.10

人身災害 ----- 0

物損災害 ----- 0

合計 ----- 0